

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心して、自由に、主人公として、楽しく過ごす事の出来る！をグループホーム”ありがとう”の理念としています。地域の中でその人らしく安心して、自由に、主人公として、楽しく過ごす事とはどういうことかを具体的に考えて行くようにしています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	この理念について、入社時に学び、又、理念の「安心して」「主人公」「楽しく」とはどういうことかひとりずつそれぞれの思うところを記入していただき、まとめるなどして、理念の共有に努めています。ミーティングでも話し合いの機会を設けています。	<input type="checkbox"/> 新ユニットが出来、新入職員が多いので、今後も定期的に理念のついてミーティングなどで話し合いを持ち、理念を共有して行くよう心がけていく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	パンフレットに理念を載せています。見学に来た方に説明したり、運営推進会議などでも報告したりしています。理念を記したものをホール、事務室、職員の部屋等にはっています。	
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入所者と散歩する時など出来るだけ近隣者と声掛けを多く取るようにしています。近隣者が時々、食器洗いを手伝いに来てくれたり、お野菜を持ってきてくれたりしています。火災訓練時協力依頼しています。	<input type="checkbox"/> 来年は入居者の行事で外庭で行う、焼き肉やいも煮会などの行事のとき等、近隣者に参加していただくよう声掛けを行っていききたいと思います。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏に町で行われる千人踊りを入所者全員で見に行きました。老人会に夫がいっしょに連れて行って参加している入所者がいます。選挙などの投票に行ける方は行けるよう協力しています。今年度11月より町内会に入れていただきました。	<input type="checkbox"/> 町内会に入れていただいたので町内会の一員として協力できることを協力して行きたいと思っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティング時に事業所の力を活かした地域に貢献できる事を話し合っています。管理者が認知症サポーター養成講座の協力をしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を運営者、管理者、職員全員で目をとっています。そして評価を活かした具体的な改善方法についてミーティング時にスタッフと話し合い、自己評価表を共有して行くようにしています。自己評価・外部評価は玄関前のミニホールでいつでも観覧できるようにしています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2009年11月11日に運営推進会議が(利用者家族、市町村保健師、行政担当者、地域包括センター職員、近隣者代表、民生委員、当施設代表、当施設管理者により)実施された。グループホームの現状報告(2ユニットスタート入所状況等)と意見交換がなされました。	○	運営推進会議が定期的に行われていないので、来年度は計画的に行って行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ありがとうございますの便りを関係者に持参していただいています。入居状況などその都度報告し、相談や情報収集に努め、サービスの質の向上のため取り組んでいます。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者と職員で、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修会にH21年12月16日参加しました。必要に応じて地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を紹介したり、活用していきます。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを目の届くところに置き、利用者が自宅に帰った後、又、施設内などでも虐待が見過ごされる事が無いよう最善の注意をはかっていきます。代表からもミーティング時注意することの意識づけがなされています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に出来るだけ時間を取り契約書に沿って説明するようにしています。又疑問点のあるときは電話などで気軽に相談していただくよう声掛けしています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所者についての意見があった時は、スタッフで話し合うようにしています。又不満、苦情があった時は速やかに対応するようにしています。玄関に苦情BOXを設置しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状況、個人個人の事についてはその都度電話連絡するようにしています。又金銭管理状況は定期的に領収書を添えて送付しています。暮らしぶりや職員の異動等はお便りにて毎月提出するようにしています。誕生会があった月は個人個人のお便りを作成し渡しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族が意見や要望を言いやすいよう配慮しています。家族とスタッフが何でも言いやすい関係になれるよう努め、意見・不満・苦情等のあった時は速やかに対応するようにしています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニットごとのミーティングを開き職員の意見を聞くようにしています。又、普段でも意見や提案は聞くように心がけています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	柔軟に対応できるよう、必要に応じ(お楽しみ会がある時や受診人数の多い時等)勤務者を増員するなどの対応を取っています。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを考えた職員の異動を行っています。職員の妊娠や腰痛に伴い介護に影響があると思われたので必要に応じ異動を行いました。できるだけなじみの関係を作るためにも異動は最小限にしたいと考えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社時は入社時研修を行うようにしています。また、4月には介護についての研修を職員全員で行い、11月は保健所主催の口腔ケア研修・2月には認知症の研修を施設内で行う予定です。外部研修も出来るだけ参加するようにしています。</p>	<p>○</p> <p>研修は職員育成にとって欠かせないものと考えています。今後も出来る範囲内で施設内外の研修に参加できるように勧めていきたいと思っています。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>周りのグループホームと交流をもってグループホームの運営に役立っています。管理者が近隣グループホームの運営推進委員になって協力しています。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の悩みを聞き、必要に応じ勤務体制を変更したり、他の職員の協力を得るなどしてストレス軽減に努めています。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は出来るだけ職員の意見を聞くよう努力しており、向上心が持てるよう声掛けを行っています。忘年・会新年会などを行ってねぎらうようにしています。</p>	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には相談者に実際に会い、話をきいたり、現在の困っていることなどの情報を得ます。すぐ入所するのではなく、見学していただいたり、ショートステイを利用していただいたりして、信頼関係を築くようにしています。</p>	<p>○</p> <p>現在は満床で入所できないので、入所希望でこられた方には現在の入所状況を知らせ、見学、可能な限りのショートステイの利用等受け入れられる時は受け入れます。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前には相談者の家族に実際に会い、話を伺ったり、すぐ入所するのではなく、見学していただいたり、ショートステイを利用していただいたりして、入所者の家族とも信頼関係を築くようにしています。</p>	<p>○</p> <p>現在は満床なので入所できない事を伝え、他の施設の紹介も行っています。それでも当施設を希望される方には状況をこまめに説明し、又悩みや相談にも乗るようにしていきます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人と家族の希望するその時の支援内容を見極め、必要に応じて、他の施設の紹介や地域包括センターへの連携を行います。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者が自宅訪問し、現状を把握したり、又、グループホームの説明を行ったりして、不安なく利用していけるよう配慮しています。本人と家族の負担が最小限にサービスを開始していけるよう、見学に来ていただいたり、ショートステイを利用していただいたり、家族、本人と共に一緒に計画し対応していきます。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はいつも、共に生活しているという視点を忘れないで、入所者を尊び支えあう関係を大切にしています。声掛けも”ありがとう”の言葉を大切にしています。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを良く聞き、大切に、家族と共に一緒に本人を支えていく介護をしていきたいと思っています。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を良く理解し、入所する事により関係性がさらに良好になっていくように関わっていきます。来所時には出来るだけゆっくり会話など出来るよう配慮しています。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者が入所前からの馴染みの関係が途切れないよう、家族と協力して、支援していきます。散歩やお買い物など出来るだけ今までの生活と同じ行動が出来るよう支援します。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関わりが持てる入所者に対して、食事の座席や、日常の座席を工夫することにより利用者同士の関わりを大切にしています。又反対に顔が見えることで反応してしまう利用者同士の時は席を離すなど、その時の状況に応じ配慮しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何らかの理由でサービスが終了した後も、必要に応じグループホームとして援助できる事は援助していくように努力し、本人や家族の希望に沿って関わりを大切にしていきたいと思えます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、思いや希望、意向などを把握するよう努力しています。意志の疎通が困難なケースは家族などから情報を聞くなどして把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人と家族より情報を収集する事に努めています。入所時には出来るだけ生活歴サービス利用経過などの情報をケアマネージャ等とも連絡を取り合って収集するよう努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	それぞれの日常生活の様子や会話の中、又バイタルチェック等より心身状況を見過ごさないよう把握するよう努力しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度行う、ユニットごとのミーティング時にケースカンファレンスを行ったり、担当を決めて必要時カンファレンスを行うことにより、介護計画にチームの意見やアイデアが反映されるようにしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行っています。本人の状況が大きく変化した時は必要に応じて、期限前であっても、カンファレンスを行い、介護計画の追加や変更を行うようにしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアや実践・結果等を個人記録に記入して情報を共有するようにしています。又その情報を実践や介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況によって、それぞれのケースにあった、又その時々々にあった柔軟な対応に心がけています。急病時には受診して電話連絡したり、本人の希望で買い物に行ったり、入所者の希望により食事のメニューを考えたり変更したりしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	それぞれの機関の協力を得て(民生委員・ボランティア・消防・社共等)連携を取り、入所者が安心して生活できるよう支援していています。消防の協力を得、防災訓練を行ったり、ボランティアの人が1週間に1回来てくれて入所者に絵本や紙芝居を読んでもくれたり、クリスマス会には手品、新年会には琴と尺八の演奏をボランティアの方がしてくれました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	介護認定時は厚生病院・訪問看護「虹」のケアマネージャの協力を得てスムーズに介護認定できるよう支援していただいたり、外出する時など、社協より車いすを借りたり、他の施設(特養や老健等)のケアマネージャから情報を得るなどして支援しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターより、入所希望者の情報をいただいたり、当施設の入所状況を報告したりして連携をとるようにしています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医療機関に受診し、かかりつけ医の指示を仰ぎながら、病状観察を行っています。必要時は家族とケアマネージャと同伴で受診し、病状の説明を受けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	見取りについては医療処置の問題や家族の気持ちなど非常に難しいものなのでじっくりと今後の変化に備えて検討準備して行きたい。入所者と家族の個人個人の状況に合わせその都度対応して行きたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳をもった言葉かけに注意するようスタッフ同士でも注意しあい、又記録の管理なども個人情報の取り扱いとして十分気を配っている。	○ 言葉かけについては、私たちの大先輩であるということスタッフ一人ひとりが肝に銘じ、尊厳を持ってかかわって行きたい。そして来年度は当施設の理念とあわせ「尊厳ある言葉かけ」を小目標として掲げ、尊厳ある介護を再認識して介護に係って行くようにする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ、本人の希望や思いが表出できるような言葉かけに気を付けている。又意志の表出出来ない方には、表情などで見極めていくよう努力してかかわっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入所者の意志を大切に関わるようにしており、職員のペースではなく出来るだけ入所者のペースに合わせる関わりをもつようにしている。入所者と係るときはゆったりと係るように注意している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人あるいは家族の希望があれば、希望する美容室に行っている。希望のないときは当施設に理容士さんが来てくれている。一人は希望の美容室に月に2回程度行っています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗いなど利用者のそのときの状況により一緒に取り組んでいます。献立は出来るだけ季節感を取り入れた食材を使うようにし、食材は出来るだけその日に用意して新鮮なものを使用するようにしています。ケースによっては刻み食にしたり、ミキサー食にしたりして、個別にあった食事形態で提供しています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入所者の望むお菓子や飲み物を一緒に買いに行ったり、買ってきたりしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレの排泄パターンを知るよう努力し、それぞれの表情やしぐさ、トイレ時間などを見ながら、日中は全員それぞれにあったトイレ誘導を行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日お風呂は入れています、本人の希望を聞きながら、入浴を勧めるようにしています。1週間に2～3回の入浴回数です。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝、起きれない方はゆっくり起きていただくなどの配慮をしています。あまり起きるのが遅くなり、夜間逆転しない程度に起きていただきます。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、その人が出来ることをしていただくよう支援しています。食器洗い・洗濯物干し・廊下掃除・洗濯たたみ・買い物等日常生活で出来るものを行っていただき役割をもつていただいています。編み物。縫物が好きな方には好きな事をしていただきます。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれのケースに合わせ、家族の了解のもと小銭を自分で持っていていただいています。必要に応じて、自分の小銭をもって買い物に行きます。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩など行きたい時は散歩にスタッフが一緒についていきます。グループホームで必要な買い物とき、声掛けして、行きたいという希望のあるときは入所者と行くようにしています。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	5月は生田原の「ちゃちゃワールド」、6月はグループホームの外で「焼き肉」、7月は岩見通りまで出て千人踊り見学、8月は外で「いも掘り」「いも煮会」、9月は太陽の丘コスモス畑見学など外出を定期的に行っています。今年度は体調の悪かった方もいなく、全員外出しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により電話をかけたり、手紙を書いたものを出したりしています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人友人など気軽に来ていただけるように声掛けしています。入所者の家族によっては1週間に2回～3回来所してくれる方もいますし、1～2週間に1回程度の方、遠方のため2～3カ月に1回程度の方もいます。来所時は居心地良くいて頂くようスタッフ一同配慮しています。		
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時等身体拘束について説明し、身体拘束しないケアに取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	どうしてもやむ迫えない場合以外は鍵はかけないよう取り組んでいます。現在、すぐ、外に出て行ってしまうケースがあるので、出て行った時はついて歩くようにしていますが、トイレ介助と入浴介助、および受診などでどうしても付いていけない時は短時間の間鍵をかける事があります。家族にはそのことを充分説明しています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシーにも配慮するよう心がけ夜間の巡回は行っています。部屋の環境整理、ベッド柵、布団の使用、夜間の物音の聞き分け等によって、転倒の予防や異常の早期発見に努めるようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	明らかに注意が必要なものは(洗剤、ハイターなど)、入所者の目のとどかかところに保管するようにしていますが、花や植物などは、置いてあります。今後、認知が進行し口に入れるなどの危険が考えられるケースがありますが個別対応で出来るだけ家庭的な雰囲気の環境づくりに心掛けていきます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤飲、行方不明、火災等ないよう、日ごろから環境整備や、個別の食事内容、個別の動きなどの観察と注意に心がけ、未然に事故防止に取り組んでいます。予測される危険はあらかじめ個別の事故防止に取り組んでいます。ある方は部屋においてある椅子に砂袋などで倒れないよう固定したりしています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>今年度は8月26日、27日の2日間遠軽地区広域組合消防の協力を得、心肺蘇生法(AED)及び消防訓練を行い、26名のスタッフが普通救命講習Ⅰの終了を認定された。又、11月26日には火災場所を想定して、近隣者と職員全員に連絡する火災訓練を実施した。今後も定期的に訓練を行い急変や事故発生に備えて行きたい。</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>今年度は上記の通り火災訓練を行いました。又火災訓練時などは近隣者の協力を得、訓練を行うことが出来ている。昼夜の体制についても、火災マニュアルを作成して、スタッフと話し合いを持つようにしている。</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>	<p>起こりうるリスクをカンファレンス時など話し合い、リスクについてはあらかじめ家族に説明し、対応策などの話し合いを行うようにしている。転倒のリスクのある入所者には家族にあらかじめその危険性を話し対応策についてカンファレンスし対応していった。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日、定期的にバイタルチェックを行い、いつもと違った変化を見逃さないように、心掛けている。何か変化のあるときは報告しあつて情報を共有することにより異常の早期発見に努めている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の作用副作用は、個人記録にはさめるようにしており、それぞれスタッフが必要時確認できるようにしています。服薬についてはスタッフ同士声掛けを行い、確実に飲んでいただくようにしています。服薬マニュアルも作成し、薬の誤服用がないよう、注意している。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘について職員は理解し、便秘の方の申し送りをしており、それにしたがって、水分を勧めたり、身体を動かすようにしたり、必要に応じて下剤を服用していただいたりしています。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>今年度、アサヒ歯科クリニックの歯科医師の協力を得、入所者の口腔内の状況を見ていただき、歯科治療を行い始めています。又研修会も10月17日の網走管内老人福祉施設協議会の口腔ケア講習会に3名参加、10月29日隣施設GHの口腔ケア研修に2名、そして、当施設においても施設内研修で保健所主催の口腔ケア研修を実施し更なる口腔ケアの充実を図って生きたいと思っています。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量の把握の為に記録を行っており、必要に応じ追加したり、それぞれの好きな飲み物を提供したり水分の取れない入所者にはゼリーや果物などを提供するようにしています、個別のケアを行っています。体重増加傾向の患者にはお菓子を控えていただくよう声掛けしたり、御飯の出す量を調整したりしています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成し、感染予防に取り組んでいます。時期によって必要な感染対策強化を心掛けています。季節型インフルエンザ、新型インフルエンザの予防接種を受けるよう支援しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為に、冷蔵庫の定期的消毒(2週間に1回)や、食器、調理器具の消毒など衛生管理に気をつけています。食材は当日使うものを買うようにして新鮮なものを利用し調理するようにしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	1号館の前にグループホームありがとうの看板を付けています。玄関前には夏には花などを飾り、冬はイルミネーションなどを付けています。又雪が降ったときは来所者の車が止まれるよう除雪をしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1号館ホールは吹き抜けで明るい雰囲気です。四季の行事にあわせクリスマスツリーやお正月飾り、お雛様、節分など季節に合ったものを置いたり飾ったりするようにしています。毎月入所者と一緒その月と季節にあった図柄のカレンダーを作成し張っています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1号館は玄関前に話ができる空間を作り、日本人形や花や植物を飾っています。入所者とスタッフが時々この場所で人形や花を見て話をしたりしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に出来るだけ使い慣れたものを持ってきていただくように本人と家族に話しています。新しく入所される方は希望によりカーテンも自分の好きな色を付けていただくようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の時は出来るだけ喚気のため窓を開けるようにしています。冬になって寒くなった時は、暖かい時間帯に開けたり、本人がホールに居る時に個人室の窓を開けるなど配慮しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなど、必要と思われる所に手すりが付いています。ベッドなど、その人の身体能力に応じ手すりが必要な時には家族の協力を得て、柵を付けていっています。布団の方がよい方はベッドではなく布団を使用しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食器洗いや、掃除、洗濯物のたたむ事などそれぞれに出来ることをしていただけるよう関わっています。入所者の中には自分の仕事と決めて夕方の食器洗いや廊下の拭き掃除を行ってくれている方もいます。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	夏には花を飾ったりしています。又畑を作って芋やミニトマトや枝豆などを植えています。裏庭で焼き肉やいも煮会をしています。暖かい時は外でお茶を飲んだりしました。七夕にはベランダに七夕飾りを付けたり、クリスマスにはイルミネーションを飾りました。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年度（2009年3月）より2ユニットになり新人スタッフも入社し、スタッフの数も増員された。この事によりますます、グループホーム”ありがとう”の理念の共有が大切と思われる。ことあるごとに理念に立ち返り、自己評価表を活用しながら、利用者の意見、関係機関の助言に耳を傾け、利用者の尊厳を守ることを重視した日々の介護に携わりたい。今年度はスタッフに当施設の理念についてのアンケートを取るなどして「理念の共有」に心がけてきた。来年度は「尊厳ある言葉かけ」を小目標として、理念にたちかえりながら、スタッフ一同で利用者の「生活の質」を高めるよう関わっていきたい。